「私らしい読書」

神山　忠

ディスレクシアは、教育現場で学習障害と言われるグループに属します。学習障害とは、読む、書く、計算するなどの特定の作業に極端な苦手感があり、限局性学習症ともいわれます。その中の読むことに特に苦手感がある特性をディスレクシアと言います。知的には遅れはないため、幼少期から誤解を受けたり適切な支援を得られないでいたりすることが多いと言われます。

私が文章を見たとき、紙の上に黒ごまや黒大豆がばらまかれたように見えてしまいます。それを不要な情報を削除して注目すべきものを認識しやすくするとやっと、文字だと目に映ります。そのためにフィルタリングするための定規は手放せません。

文字の書体によっても、文字として認識しやすさが異なってきます。明朝体など太さの違いや角の尖りがある文字は文字として認識しにくいです。丸ゴシックなどの方が認識しやすいです。もし、点字ディスプレーのドットピンが、つまようじの先のように尖っていたら…もしピンがマッチ棒の持ち手のように四角柱だったらきっと読みにくいと思います。私にとっての書体の違いは、点字の点の形状が違うのと同じ感覚かもしれません。

あと、縦書きは苦手です。縦書きの文章を読もうとすると乗り物酔いをしているような感覚に襲われます。助かるのは、横書きで、意味のまとまりが認識しやすいように分かち書きだと文章から情報を得やすいです。

勉強ができなかった私が学齢期によくしてもらった支援として、ひらがなでの文章提示でした。平仮名ばかりの文章は、誤認識しやすく困ることが多々ありました。平仮名、片仮名、漢字が混在していた方が、この形はあの意味、これはこのことと形と意味をマッチングできるので助かります。

また、フリガナでも困ることがありました。フリガナが無いと全く読めない。しかし、親文字なのかフリガナなのかの見極めが難しい表記も多いです。親文字とフリガナの色を変える、距離を調整する、書体をかえるなどの配慮が無いと親文字とフリガナの認識が困難です。慣れてきたらフリガナを消すことができるとより見やすいレイアウトにできます。

苦手な文章を読むことでも、ハイライトされていれば、乗り物酔い状態でも何とか文字だと認識して、見るべき文字を追うことができます。ハイライト機能は、読み上げ機能と連動して備わっていると私らしい読書ができます。

以上のような読みに対する特性があるので、私らしい読書とは、ハイライトされて読み上げられる。縦書き、横書きの変更ができる。書体や文字サイズの変更ができる。行間、文字間隔の変更ができる。分かち書きができる。フリガナ、ルビ表示に見やすい調整ができるなどの余地があるとありがたいです。

よく、読み上げ機能さえあればいいだろうと言われることがあります。しかしそれは、ラジオを聞いている感じで読書している感覚ではありません。味わいながら、意味を理解し咀嚼しながら読むためには、各種のレイアウトやハイライトなどの調整が欠かせません。

これらの機能は、外国から来られた方にも有効な気もしますし、誰もが迎える老いを安心して迎えることにもつながることだと思います。

誰一人取り残さない社会に向かうために、私の読みに関する困難特性を紹介させて頂きました。